

第52回

新千歳空港の24時間運用に関する 苫小牧市地域協議会会議録

日 時：令和4年8月22日（月）18時30分開会
場 所：植 苗 フ ァ ミ リ ー セ ン タ ー

第52回新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会

- ・日 時 令和4年8月22日（月）18：30～20：00
 - ・場 所 植苗ファミリーセンター
-

・議 題

- (1) 新千歳空港における最近の動向について
 - (2) 令和3年度航空機騒音測定結果等について
 - (3) 住宅防音対策の進捗状況等について
 - (4) 地域振興対策の進捗状況等について
 - (5) 新千歳空港周辺地域振興基金について
 - (6) その他
-

◎地域委員 出席者（20名）

◎北海道（5名）

◎苫小牧市（6名）

◎公益財団法人 新千歳空港周辺環境整備財団（2名）

◎北海道エアポート株式会社（4名）

1. 開 会

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、定刻となりましたので、ただいまから、第52回新千歳空港の24時間運用に関する苦小牧市地域協議会を開催いたします。

本日の協議会は、お手元に配付しております次第に基づき進めさせていただきます。

2. あいさつ

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、開催に当たりまして、北海道交通企画監からご挨拶を申し上げます。

●北海道（交通企画監） 皆様、おぼんでございます。

本日は、お忙しい中、このようにお集まりいただきまして、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が大変流行しておりますので、大変恐縮ですけれども、着座にてご挨拶させていただきますことをご許してください。

本日お集まりの委員の皆様方には、日頃から新千歳空港の24時間運用をはじめ、道の航空行政に大変ご理解とご協力を賜っておりますことに、この場を借りまして重ねてお礼申し上げます。

さて、新千歳空港におきましては、令和3年度の旅客数が前年度の値に比べまして4割増の約923万人と、回復の傾向を見せております。また、7月には、AIRDOの福岡線の新規就航や大韓航空などによります韓国・ソウル線の再開など、道内経済にとって明るい話題が出てきているところでございます。

一方で、現在、新型コロナウイルス感染症につきまして、全国各地で感染拡大が続いている状況にありまして、北海道では、「BA.5対策強化宣言」ということで、8月10日から31日までの間、「夏の感染拡大防止パッケージ」といたしまして、保健・医療提供機能の十分な発揮、それから、感染防止行動の徹底とワクチンの接種、感染防止対策と社会経済活動の両立という3つの取組を懸命に実施しているところでございます。

今後も、引き続き、この感染防止に努めながら、道内、そして道外への移動など、航空需要の拡大を進めまして、新千歳空港に活気が戻ってくるように一丸となって努力してまいりたいと考えております。

いずれにしましても、新千歳空港の24時間運用の推進につきましては、ここにいらっしゃる皆様を含めまして、地域の皆様のご理解とご協力が何よりも大切であると認識しておりまして、このコロナ禍におきましても、30枠合意において皆様にお約束いたしました住宅防音対策、地域振興対策につきましては、市、財団との連携の下に着実に進めてまいる所存でございます。

本日の地域協議会におきましては、皆様からの忌憚のないご意見を頂戴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 続きまして、苦小牧市副市長からご挨拶を申し上げます。

●苦小牧市（副市長） 皆さん、どうもおぼんでございます。

本日は、大変お忙しい中、また、夜分にもかかわらずご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

地域協議会委員の皆様におかれましては、新千歳空港の24時間運用に関しまして、常日頃よりご理解とご協力を賜っておりますことに改めて感謝を申し上げる次第であります。

さて、新千歳空港を取り巻く状況につきましては、ただいま交通企画監からもお話がありましたとおり、大変厳しいものとなっておりますが、本年7月には大韓航空が新千歳ーソウル線を再開するなど、明るい話題も徐々に始まってきており、本市といたしましても、北海道エアポートなどと連携を図りながら、一日も早い航空需要の回復に努めてまいりたいというふうに考えております。

また、皆様とお約束をさせていただいている住宅防音対策、地域振興対策につきましては、北海道、新千歳空港周辺環境整備財団と連携を図りながら事業を進めているところでございますが、今後とも皆様のご意見を賜り、着実に実施をしてまいりたいと考えております。

改めまして、委員の皆様方には、地域協議会の開催に対しますお礼と協議へのご協力を心からお願い申し上げまして、簡単ではありますが、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） この後につきましては、座って進めさせていただきます。

◎事務連絡

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 本日の協議会開催に当たりましては、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、検温、マスクの着用、会場内の換気、マイク等の消毒徹底などの取組を実践しての開催となりますので、よろしくお願いいたします。

また、万が一、本日出席された方で感染が分かった場合には、お手数ですが、苦小牧市空港政策課までご連絡をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

3. 議 事

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、早速、3の議題に入ります。

（1）「新千歳空港における最近の動向について」を議題といたします。

北海道及び北海道エアポート株式会社から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、まず初めに、議題の1つ目になっております新千歳空港における最近の動向につきましてご説明申し上げたいと思います。

資料の1ページになっております。資料1-1、「新千歳空港における最近の動向について」をご覧いただきたいと存じます。

まず、資料の上段になっております1の「深夜・早朝時間帯における定期便の状況」に

ついてでございますけれども、この資料では、令和4年7月までの運航実績について整理をさせていただきます。

今年度の夏ダイヤにおきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を受けていた昨年度と比較いたしまして、2便増加し1日最大6便の運航というふうになっております。

次に、下段の表になっております。2の「深夜・早朝時間帯における国際臨時・チャーター便の状況」についてでございますが、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響といったことがございましたことから、令和2年度以降、本年7月末までの運航はなかったところとなっております。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期に及ぶ中、今後とも深夜・早朝時間帯の発着枠の有効活用に向けまして、道といたしましても、航空路線の需要を高めていくことができるよう取り組んでまいりたいと考えております。

次に、2ページの資料1-2「新千歳空港の近況について」でございますが、こちらの資料に関しましては、北海道エアポート株式会社からご説明をいただきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

●北海道エアポート株式会社（地域共生担当次長） 改めまして、どうぞよろしく願いいたします。

私事でございますが、今年の3月に入社いたしまして、まだ半年も経っておりません。しかしながら、2月までは航空自衛官として千歳基地の航空自衛隊第2航空団司令部に勤務しておりました。同じく航空業ということで、地域住民の皆様方のご理解なくして基地の運営、空港の運営は成り立たないというふうに強く認識している次第でございますので、どうか引き続きよろしく願いいたします。

それでは、着座させていただいてご説明申し上げます。

新千歳空港の近況につきまして、資料1-2でございます。

今年の発着便数についてですが、国内線につきましては、東京便を中心に復便が続きまして、対前年度比で最大2倍と増加傾向で推移しておりますが、コロナ前と比較しますと2019年比で7割から9割程度となっております。

国際線につきましては、約2年4か月の間、全路線で運休しておりましたが、皆さん報道等でご存じのとおり、7月17日にソウル近郊、仁川空港との運航が再開されております。

なお、中国、台湾等への貨物便の運航は、コロナ禍の状況でもありながら、細々と継続されている状況であります。

続きまして、下段に移りますが、旅客輸送実績についてであります。

国内線では、ワクチンの普及や自治体等による観光需要喚起施策等の影響と見られる移動増によりまして、旅客数が前年を上回る水準で推移しております。しかしながら、期間

中、コロナ前と比較しますと7割に満たず、厳しい状況と言えます。

また、国際線につきましては、先ほどもありましたとおり、仁川便と同様、今後の運航再開に期待したいところでございます。

北海道エアポートからは以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 最後にその他のところでまとめて質問されても結構でございますので、次へ進めさせていただきます。

次に、（２）「令和３年度航空機騒音測定結果等について」を議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）引き続きご説明をさせていただきたいと思えます。

それでは、議題の２つ目となっております令和３年度航空機騒音測定結果等につきましてご説明を申し上げます。

資料につきましては、３ページ、資料２－１、「令和３年度航空機騒音測定結果について」という資料をご覧いただきたいと存じます。

航空機騒音の測定局につきましては、苦小牧市内に北海道が設置しました植苗局やウトナイ局など９局、それから、苦小牧市が設置をしております琥珀荘局など６局、計１５局ということになっております。

この表の右側になりますが、年間L d e n値と民航L d e n値の二つを記載させていただいております。

年間L d e n値につきましては、千歳飛行場を離着陸する自衛隊機を含む全ての航空機騒音を集計した結果というふうになっております。

また、民航L d e n値につきましては、自衛隊機の離着陸のなかった日といったものを民航機のみ航空機騒音を測定した日とみなしまして集計をした結果というふうになっております。

なお、苦小牧市内におけます測定結果につきましては、表の下段のほうになっておりますが、太枠で囲った部分であり、令和３年度におけます民航L d e n値につきましては、令和２年度と同様に、いずれの局におきましても、対策の目安となります環境基準、表のちょうど中央部に記載している（参考）L d e n換算値がございますけれども、それを全て下回っているところでございます。

続きまして、４ページをご覧いただきたいと存じます。

資料２－２、「令和３年度遅延便の深夜・早朝時間帯使用状況について」という資料につきましてご覧いただきたいと思えます。

この資料におけます遅延便の定義につきましては、地域の皆様にお認めいただきました深夜・早朝30枠以外の便で、出発ないし到着が予定より遅れたことに伴って、深夜・早朝時間帯を使用した便というふうになっているところがございます。

まず、資料の1の「航空会社別便数」についてでございますけれども、表の一番右にありますとおり、令和3年度の遅延便は全体で170便となっております。航空会社別で申しますと、AIRDOが64便ということで一番多くなっておりまして、全体の約38%を占めているといったような状況となっております。

次に、その下でございます、2の「遅延理由別便数」についてでございます。

令和3年度につきましては、天候による遅れといったものが一番多く、88便というふうになっておりまして、全体の約52%を占めるといった結果となっているところがございます。

下にグラフがございますけれども、赤色でお示ししている部分になりますが、1月の遅延が一番多くなっております。これは、大雪の影響によるもの等が主な要因というふうになっているところがございます。

それから次に、一番下段の3の「時間帯別便数」についてでございます。

例年、22時から22時19分の20分以内の遅延が大変多くなっておりまして、令和3年度も同様でございます。この時間帯での遅延が74便というふうになっておりまして、全体の約44%を占めているといった状況となっております。

また、22時台の遅延便、表の左から三つ目まで、こちらのほうを合計いたしますと139便というふうになっておりまして、全体の約82%を占めているといった状況となっております。

次に、資料の5ページ目、資料2-3、「千歳市側と苫小牧市側の着陸の状況について」といった横表をご覧いただきたいと考えております。

この資料につきましては、千歳市側でございます旭ヶ丘局、苫小牧市側にある植苗局のそれぞれの測定局の測定値から着陸方向を判断いたしまして、朝の7時から21時59分までの間、それから、22時から翌朝6時59分までの間のそれぞれの時間帯に分けて回数をカウントさせていただいております。

新千歳空港を発着する航空機につきましては、空港を離陸後、東京方面をはじめとして、目的地に向かって南下する便が非常に多くなっており、千歳市側から離陸した場合、離陸後、目的地である南側に旋回して苫小牧市側へ向かうといったようなこととなっております。

そのため、苫小牧市側の測定局においても、千歳市側からの離陸に係る騒音を計測するといったことが往々にしてございまして、離陸数につきましてはなかなか正確に把握することができないことから、本日お示ししている資料につきましては、これまでと同様、着陸数のみに着目して整理したところとなっております。

それでは、資料の上の表をご覧いただきたいと存じます。

令和3年度の着陸数についてでございますけれども、全体で千歳側が2万6,611回、苫小牧側が1万2,851回となっております。比率で申し上げますと、千歳側が約67%、苫小牧側が約33%というふうになっております。

これを時間帯別に見た場合、7時から21時59分まででは、ちょうど表の真ん中の欄になっておりますけれども、千歳側から2万6,264回、苫小牧側が1万2,690回となっております。比率では千歳側が約67%、苫小牧側が約33%というふうになっております。

また、22時から翌朝6時59分までのいわゆる深夜・早朝枠につきましては、千歳側が347回、苫小牧側が161回となっております。比率で申し上げますと、千歳側が約68%、苫小牧市側が約32%というふうになっております。

離陸につきましては、先ほど説明申し上げたとおりでございます。正確な数字を把握しかねるといったところですけれども、下の点線で囲っている部分で若干補足させていただいております。千歳側の離陸回数が苫小牧側の着陸回数とほぼ同数であろうというところで、約1万2,900回、それから、苫小牧市側の離陸回数が、先ほどと同じように千歳側の着陸回数とほぼ同数であろうというところで、約2万6,600回、こうした形で我々のほうでも推計しているところでございます。

令和3年度航空機騒音測定結果等に関する説明は以上でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がございますでしょうか。

A委員、お願いします。

●A委員 ちょっと伺うのですが、この遅延便の件です。

このデータ収集はいいのですけれども、遅延便の各航空会社にどういう指導をされているのかなと思つての質問でございます。

●北海道エアポート株式会社（地域共生部長） 遅延便については、航空会社のほうに、やはり協定に基づいてしっかり運営するように申し伝えております。ただ、いろいろな事情で遅れることがありまして、皆様のご意見なども踏まえながら、今後また対応を考えていきたいと思っております。

以上です。

●A委員 この圧倒的な遅延の原因が天候ということになっているのです。今日の資料にはありませんが、苫小牧市から毎月送っていただいている令和4年6月の遅延便は41件。5分、10分遅れている遅延というのはやむを得ないのかなと思う。ただ、6月24日のAIRDO、これなんかは、21時45分到着予定で0時37分、これだけ遅延してまで飛んでくる理由は天候だけではないのですよね、これは。書いているのは機材の故障だけか何だとかで、今日の資料にはありませんよ。今年の6月の話ですから。だけど、こういうことを分かっている、6月26日のJAL、到着便が19時、これが23時23分、こういう2時間も3時間も遅れて飛んでくるなんていうのは、もう遅延が分かること

を想定しながら飛んでくるというのはどういう考えなのかなと。

この2つだけ言いましたけれども、この中にまだ6月の状況で1時間以上遅れているのが何便かあります。5分、10分なら、それは天候などの状況でフライトが遅れたというのは仕方ないのかなと思っています。だけど、2時間、3時間を遅延するという事は、遅れても許してもらえると勝手に思っているエアラインがまだいらっしゃるのかなという感じですよ。

やはり、決まったルールで飛ばない航空会社は、これは天候じゃないですからね。横に書いてあるのをそちらで分かっていると思うのですけれども、機体の整備だとか何とかとみんな書いてあるのですよ。天候じゃないのですよ。これは6月ですから。

これは、昨年までの資料に基づいて今日はやっていますけれども、その後もこうやって飛んでくるというのは、6月は41便です、遅延。いかにおかしいのかなと。

もう一つ、これはそちらで分かっているかもしれませんが、千歳が67%の着陸と言っています。千歳でも、馬追側、長沼から来るエアラインも多いかもしれませんが、今、自動誘導装置で早来上空からぐるっと回って千歳側までおりる、駒里上空、祝梅まで行くか行かないか、みんなこれは千歳側となっていると思うのです。

だから、苫小牧のほうが30何%と数少ないのですが、圧倒的に、千歳は2つのルートで民航機は降りていると思うのです。そこら辺もどういうふうなデータを収集されているのか、分かれば教えていただきたいと思います。

●北海道エアポート株式会社（地域共生部長） では、データのほうは私から、統計のほうは北海道からお願いします。

まず、騒音につきましては、航路下の皆様に本当に大変なご迷惑をかけ、お詫び申し上げます。申し訳ございません。

今、委員からもご説明があったように、天候以外の要因で遅れていることもあるだろうと思っております。そういう意味で、我々のほうとして、今日ご意見いただいたことを踏まえて、エアラインのほうにしっかりと、関係機関の皆様と打合せをさせていただきながら申入れを行いたいと思っております。よろしく願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 数字のほうの関係でお答えさせていただきます。

国交省の新千歳空港事務所、CABとお話をさせていただいたことがございましたけれども、離着陸の方向につきましては、どうしても風向きによる変動といったものが要因となっていると聞いております。逆に、それ以外の要因というのはなかなかないという話も伺っているところでございまして、令和3年度の1日当たりの風向きにつきましては、南風が多かったというようなこともお聞きしているところなものですから、千歳側からの離着陸数が多かったのかなと我々のほうは考えているところでございます。

●A委員 私だけ言ってもあれですので、それでいいのですが、言っている意味が全く違うのです。自動誘導装置で千歳側から着陸するという事は、早来、駒里という防音

工事をやらないエリアをぐるっと通って降りていると思います。今言っている祝梅だとかあちらのほうをずっと来るのは、長沼からずっと降りて千歳側から街を縦断して降りてくるので、千歳の防音工事をずっとやられていると思うのですよ。だから、千歳側からというのは2パターンの降り方があると思うのです。今は分からないでしょうけれども、それを聞いたまでなのです。

僕らは、職場上、千歳で見えていますけれども、そういう飛び方をしています。離陸も着陸もそういうやり方をしているのが現実ですから。今後、次回まででもよく調べてみてください。

以上です。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） ただいま委員のほうからいただいたご意見も踏まえて、こちらのほうでも再度確認しながら報告できるようにしたいと考えております。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） よろしいでしょうか。

ほかにございますでしょうか。

B委員、お願いします。

●B委員 今出されたものの結果は必ず次の会合で報告してください。そうでないと意味がない。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 回答につきましては、地域協議会が原則年2回ということになっているので、大分時間が空いてしまいますので、情報が入りましたら市のほうに連絡いただきまして、次の航空機騒音対策協議会のほうが早く開催されますので、そこで結果のほうは報告させていただきます。よろしいでしょうか。

●B委員 この会議は1年に2回やらなきゃならないのではないですか。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） この会議でも報告しますけれども、早目にご連絡するという意味で、11月の航空機騒音対策協議会で先に報告したいと考えています。

●B委員 やはり、ここに顔を出した人の耳に入れてもらわないと意味がないと思う。だから、この次の地域協議会は年内にもう一回必ずやってほしい。2回やることになっている。我々のように、飛行機の離陸の直下にいる者は、本当にやむなく協力しているので、それを言葉のあやでごまかしては駄目だ。要求されたことはきちんと答えを出して報道に入れてもらわないと、その年度の動きが分からない。

以上です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 地域協議会の開催時期については、また地域の方々にご相談させていただいて、しっかり地域の方々に報告させていただきます。

そのほかにもございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ないようでございますので、続きまして、（3）「住宅防音対策の進捗状況等について」を議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、引き続きご説明をさせていただきます。議題の3つ目になっております。資料では、6ページの資料3「住宅防音対策の進捗状況等について」をご覧いただきたいと存じます。

まず、1の「令和3年度の実績等について」でございます。

表の中央、太枠で囲まれました苫小牧市の部分をご覧いただきたいと考えております。

表の中の数字につきましては、高齢者優先枠を含めた数字というふうになっておりますけれども、意向調査で回答がありましたのが、一般住宅で277件、世帯数で284世帯となっており、集合住宅では同じく8件、81世帯となっており、合計で285件、365世帯というふうになってございます。

工事の実績につきましては、一昨年度の令和2年度までに、一般世帯で91件、92世帯、集合住宅で2件、32世帯、合計で93件、124世帯の工事を実施しているところでございます。

令和3年度、昨年度につきましては、苫小牧市につきましては一般世帯のみというふうになっており、21件、21世帯の工事を実施しているところでございます。令和4年度につきましても、一般世帯で、16件、16世帯の工事を予定しているところでございます。

今年度末までには、現時点の予定ではございますけれども、一般住宅で128件、129世帯、集合住宅で2件、32世帯、合計では130件、161世帯というふうになる見込みとなっておりまして、実施率で申し上げますと、件数で45.6%、世帯数で44.1%というふうになる見込みとなっております。

なお、令和4年度実施分に係ります8月1日現在の着工状況についてでございますが、資料には特段書いておりませんが、今現在、8件、8世帯、既に着工しているところとなっております。

全体の合計件数につきましては、苫小牧市の下に合計の欄がございますが、件数で887件、世帯数で1,254世帯となっておりまして、全体の件数で41%、世帯数で42.5%というふうになる見込みとなっております。

次に、その下の下段の表、2の「高齢者優先枠の令和3年度までの実績等について」でございます。

令和3年度に、一般住宅で6件、6世帯で工事を実施しているところでございまして、今年度、令和4年度から6年度の計画数につきましては、現在のところ、7件、7世帯を実施するといった予定で考えているところでございます。

なお、令和元年度の協議会の席上でもご報告申し上げておりましたが、道内7空港の一括民間委託に際しまして、運営事業者でございます北海道エアポート株式会社から、住宅防音対策費用の一部につきましてご負担いただいているところとなっております。現在までのところ、令和2年度から実施させていただいております高齢者優先枠、こちらの

実施に要する費用に充てさせていただいております、今年度の現地調査実施分、工事事業年度では令和5年度の実施の予定でございますけれども、こちらまでの工事費用ということで優先的に充てさせていただきたいというふうに考えているところでございます。

次の7ページ目をご覧ください。

3の「令和4年度の現地調査について」という表になっております。

こちらのほうにつきましても、高齢者優先枠を含めた数字というふうになっているところでございますけれども、現地調査につきましては、4月18日から22日までの間の第1次調査を行いますとともに、若干間隔が空きましたけれども、8月22日、まさに本日から26日までの間で10件を予定しているところでございます。併せまして、今年度11件の現地調査を予定しているというような状況となっているところでございます。

次に、その下、中段にございます住宅防音工事の流れにつきまして、例年ご説明させていただいておりますが、改めてご説明申し上げたいと考えております。

公益財団法人新千歳空港周辺環境整備財団のほうでは、皆様から提出いただきました意向調査表に基づきまして、評価基準により順位付けを行っている状況となっております。

対象者の工事予定時期前年度におきまして、財団のほうから候補住宅通知書なるものを送付いたしまして、順次、現地調査のほうを実施しております。現地調査終了後、年度内に地域の皆様が設計事業者の方と契約していただきまして、設計を行った後、翌年度から工事を実施するという流れでございまして、この手続の流れにつきましては、これまでと変更していないところでございます。

なお、工事予定時期等につきましては、詳しくは財団のほうまでお問合せいただければと考えているところでございます。よろしくお願いたします。

それから次に、その下にございます参考欄です。新千歳空港周辺環境整備財団の組織図を記載しておりますが、昨年からの変更点といたしまして、組織体制の上に理事会が9名と表記しているところがあるかと思っておりますが、これまで財団の理事というのは10名体制でございました。本年6月の役員改選に伴い、理事が1名減の9名となっているところでございます。

住宅防音対策の進捗状況に関します説明は、以上でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ないようでございますので、続きまして、（4）「地域振興対策の進捗状況等について」を議題といたします。

北海道及び苫小牧市から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、議題の4つ目になっております地域振興対策の進捗状況につきましてご説明を申し上げたいというふうに思っております。

資料につきましては8ページになります。資料4-1の「地域振興対策の進捗状況等について」をご覧くださいと存じます。

既に皆様方のご承知の部分もあるかと存じますが、事業の概要等ということで、改めて各地区の状況を一覧で整理しておりますので、上から順に説明をさせていただきたいと考えております。

まず初めに、植苗地区についてでございます。1つ目の「公営（道営）住宅の整備」についてでございますけれども、これは植苗地区の星ヶ丘団地内に道営住宅を整備するといったものとなっております。

現在までに第3期までの整備が終了いたしまして、全23戸まで整備を終えているところでございます。7月1日現在で22戸のご入居をいただいているといった状況となっております。

4期目の整備につきましては、この後、資料4-2のほうで個別に説明をさせていただきたいと思っております。

次に、「道の駅関連施設の整備」についてでございます。

ウトナイ湖を臨む展望デッキにつきまして、平成31年3月に供用開始というふうになっているところでございます。

その下、「冷暖房機器等の設置」についてでございますが、令和3年度までに、小計の欄に数字を記載してございますが、56件、冷暖房機器等の設置を実施しているところとなっております。令和4年度につきましては、今のところ、11件の実施見込みということで考えているところでございます。

次に、その下、「住宅建設が可能となる区域の拡大の検討」についてでございますが、平成28年11月に、苫小牧市におきまして、星ヶ丘地区の地区計画の告示を行っているところとなっております。

次に、その下の沼ノ端地区についてでございます。

「複合施設の整備」ということで、平成30年10月に沼ノ端交流センターが供用開始されているところでございます。現在、その下にございます「文化交流施設の整備」ということで、新たな文化情報を発信する拠点施設として、図書館機能と地域福祉の拠点機能を併せ持った文化交流サロンを現在整備中でございます。

この施設に関しては、後ほど、資料4-3に基づきまして苫小牧市のほうから説明いただく予定としております。

最後になりますが、勇払地区の「総合福祉会館の整備」についてでございます。

こちらにつきましては、平成29年12月に供用開始をしているところでございます。

資料4-1につきましては以上でございます。

続きまして、資料4-2、9ページになっておりますが、「植苗地区道営住宅（第四期）の整備状況について」という資料をご覧くださいと存じます。

まず、1の「整備場所」につきましては、植苗地区の星ヶ丘団地内というふうになって

おりまして、2の「整備戸数等」にありますとおり、第4期では、木造平屋建て2棟6戸を整備するといった計画となっております。その内訳につきましては、後ろに括弧書きで記載しておりますが、現在のところ、3LDK1戸、2LDK5戸を予定しております、全体としまして、第1期から第4期まで全29戸を整備する予定となっておりますのでございます。

次に、「第4期の整備状況」ということで、今後の予定ということで記載をさせていただいております。

本年度につきましては、現在、4期目の土地購入に向けまして、鑑定評価などの諸手続のほうを進めているところでございます。その後、年度内を目途に工事公告、入札、契約などを行う予定としております、契約後、速やかに本体工事に着工、それから、令和5年度中に建物が完成予定というふうに現在のところ考えているところでございます。

工事の完成の時期、詳細なスケジュールにつきましては、現在、庁内で協議を進めている状況となっておりますが、これまでと同様に、地域の皆様方のご意向を伺いながら進めてまいりたいというふうに考えております。

これに併せまして、入居者募集などの手続を行っていくことになるというふうに考えておりますが、この入居者募集の時期、方法等につきましては、3期目の入居者募集の際に皆様からいただいたアドバイス等を念頭に置きながら、子育て世代に配慮した募集方法ですとか、その時期につきましては、これまで道営住宅建設に多大なご協力をいただきましたB委員等をはじめ、地域の皆様方に改めてご相談、ご助言をいただきながら、適切な時期に実施してまいります。引き続きのご協力をいただきたいというふうに考えているところでございます。

地域振興対策の進捗状況等に関する道からの説明は以上でございます。

4-3につきましては、引き続き苫小牧市のほうにお願いしたいと存じます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、私のほうから、「東開文化交流サロンの整備状況」について説明させていただきます。

資料の10ページ、資料4-3をご覧ください。

こちらは、昨年10月の地域協議会以降の動きと今後の予定などについて記載しております。

初めに、資料上段の令和3年度につきましては、昨年12月の市議会において「苫小牧市東開文化交流サロン設置条例」が議決され、本年1月からは指定管理の募集要項を公表し、3月までに4団体から申請をいただき、その後、資料中段の、令和4年度になりますが、6月に指定管理者を決定しております。

指定団体は「Social Library Platform東開町」、代表者は「社会福祉法人ゆうゆう」といまして、石狩郡当別町を拠点として、障がい者施設などを運営している会社でございますが、新たな発想で地域などと連携し、誰でも気軽に集まれる施設運営などを行っている事業者でございます。

構成員につきましては、株式会社図書館流通センターといたしまして、中央図書館の指定管理をしている事業者でございますけれども、ここを加えた共同事業体で施設管理を行ってまいります。

なお、今後につきましては、11月初旬に工事を終えて、備品や図書などの搬入作業を行い、12月のオープンに向けて準備を進める予定でございます。

資料下段には、平面図及び建物概要を掲載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

私からの説明は以上でございます。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がございますでしょうか。

A委員、お願いします。

●A委員 まず、北海道に、道営住宅が令和5年度ということは、入るのは令和6年度になるということで理解していいのですね。

それで、この3LDKが1戸と2LDKが5戸ということで、最後になるのかなと思うのですが、やはり、子育ては3LDKがいいと、今入っている方々は、お子さんがいる方はそう言っているのが現実なのです。だから、当初の計画どおりになっていくのか、今、入っている方の要望はそういうことだということですよ。

多分、これは1年間遅れると理解したほうが良いということですね。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、北海道からお願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） お答えさせていただきたいと思います。

建設年次につきましては、令和4年度から5年度ということで、継続事業でやらせていただきたいというふうに考えているところでございます。

入居につきましては、第3期のときの入居のタイミングが大体2月とか3月といった形で、地域のご意向、B委員のご意向等も踏まえながら、若者世代が入れる、子育て世代が入れるといったことに配慮しながら設定させていただいた経緯もございますことから、今回につきましても同様の形で設定させていただきたいというところを踏まえて、現在、スケジュールの検討を進めているといったところでご理解いただきたいと思いますと考えております。

それから、もう1点、ご要望のございました、3LDK1戸、それから、2LDK5戸の現在の整備計画についてでございますけれども、現在、間取りの変更ということで、3LDKをもうちょっと増やせないか、地域の要望としては3LDKのほうが子育て世代としては使いやすいといったようなご要望をいただきましたものですから、一度、こちらのほうも一旦持ち帰った後、設計変更の手続なんかの関係もございますので、それに合わせたスケジュールの修正といったことも出てくるものですから、改めて検討させていただいた後に、検討結果につきましてご報告させていただけないかというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） よろしいでしょうか。

●A委員 分かりました。

苫小牧市に、去年も2回はコロナでやれませんでしたので、あえて申し上げます。

第51回の苫小牧地域協議会で、この地区の植苗・美沢地区土地利用計画は20年間、もう終わっているわけなのです。次期計画策定についてということで51回目のときに言われておりました。どんな形で、どんなメンバーで、どういうふうに、どのくらい、今回で20年もたった計画を立てるのか、何も見えてこないのだけれども、1年たって、いつ頃からやろうとこの地区で考えているのか。道営住宅を含めて航路下で一番最後の振興策になるのですが、どんな考えでおられるか、聞かせていただければと思います。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 植苗・美沢地区土地利用計画につきましては、今年の2月に役員会の場をお借りして、現状と今後の考え方等を一度説明させていただいて、ご意見をいただいたのですけれども、少し言い訳になってしまいますが、コロナの影響もありまして検討がなかなか進んでおらず、まだお示しできないということは大変申し訳なく思っております。

この辺に関しましては、今後、できるだけ早急に地域の方々にいろいろなことを、植苗・美沢地区を将来どうしていくのかということに関しては、行政だけで考えるのではなく、地域の方々のご意見もしつかり聞きながら、その辺は早急に取りかかってまいりたいと思いますので、ご理解をいただければと思います。

以上です。

●A委員 よろしくお願ひします。

これは北海道の皆さんにも関わるのかなと思いますから、よろしくお願ひいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 植苗・美沢地区土地利用計画は、北海道とも相談しながらつくる形になりますので、その辺は一緒になって取組んでまいりたいと考えております。

そのほかにございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ないようでございますので、続きまして、(5)「新千歳空港周辺地域振興基金について」を議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、議題としては最後、5つ目の議題となつてございますが、資料の11ページ目、資料5、「新千歳空港周辺地域振興基金について」の資料をご覧いただきたいと存じます。

まず、1の「基金の概要」についてでございます。

造成目標額、一番左端になっておりますが、30億円に対しまして、令和2年度末時点で19億5,900万円が造成済となつてございます。令和3年度に2社から70万円の寄附を受けたことから、令和3年度末の造成済額につきましては、19億5,970万円

というふうになったところでございます。

30 枠合意を契機といたしまして、道内で事業活動をされている企業を中心に基金造成への協力要請を行ってきた結果、現在までのところ、17社から総額1億1,750万円の寄附の表明をいただいたところで、この表明をいただいた企業の皆様方からは、令和3年度末までに全て納入いただいたところとなっております。

これまでにご寄附いただいた主な企業につきましては、中段の「主な寄附企業」に記載のとおりというふうになっているところでございます。

次に、2の「基金造成に向けた取組」についてでございます。

令和3年度まで、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、企業等に対する個別の協力要請を差し控えていた、中断していたところとなっております。現在、新規感染者数が全国的には、道内も含めてそうなのですが、まだまだ拡大傾向にあるといったことではございますけれども、これまでの地域からのご要望といったことも踏まえまして、今後、感染状況や社会情勢などを見極めながら、経済界などとも再開の時期や要請先などについて協議を図りながら、今年度につきましては要請活動を再開し、可能な限り基金の確保に努めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

なお、基金の造成目標額の未達成分につきましては、道といたしまして1.5%の金利見合いで、今年度につきましても約1,500万円の補助をさせていただいているところでございます。

また、今後の検討課題になってまいりますけれども、造成済の基金につきましては、現在、国債ですとか企業の社債を購入いたしまして運用をしているところでございますが、基金の運用益を得て、地域の町内会活動助成事業等に取り組んでいただいているところでございます。造成済の基金につきましては、今後、順次満期を迎えるといった状況もございませうことから、現在、財団のほうとも今後の基金運用に関しまして検討を進めているといった状況でございます。少しでも運用利率のいいものに振り替えるといったことも含めまして、今後検討していきたいというふうに考えております。

本日現在、まだ具体的な検討内容をお示しすることができない状況にはございますけれども、できる限り早く報告できるよう検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほうをお願いしたいというふうに考えているところでございます。

新千歳空港周辺地域振興基金に関する説明は以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ないようでございますので、最後に（6）その他を議題といたします。

本日の議題については全て終了となりましたが、委員の皆様からほかに何かご意見、ご

質問等はございますでしょうか。

A委員、お願いいたします。

●A委員 一つはデアイシング、それと、民間委託の地域の情勢に関する質問でございます。

まず、デアイシング、有色防除雪氷剤についてです。

来年の冬ダイヤから、機体に色をつけたデアイシングをするということだけでも、これは、新千歳空港に関しては沈砂池方式で処理し、冬の場合は雪に、クールプロジェクトという名前をつけているようですけれども、そこに溜めておいて、薄めてから放出するというような計画です。ですけれども、もうこの空港は、沈砂池方式なんて無理だと思います。ゲリラ豪雨とかそういうのでは、今の容量では賄えないという報告も書いてあるわけですよ。それを、美沢川を含め、美々川、ウトナイ湖まで流すこと自体がもう駄目だと思う。この地域は、やはりここはラムサール条約の指定地ですから、自然保護区です。空港の安全対策とはいえ、環境を破壊してまでやるものではない。だから、やはり、汲み取って、ちゃんと処理してリサイクルして、そういう新しい空港に変わらなければ駄目じゃないかなと思います。

今までも無色のものをかけていました。そして、効果がないからといってまた戻って行ってかけていた、あそこにはデアイシングエプロンがあるのだけれども、機能してなくて、また増設するという事は聞いておりましたが、こういうやり方をいつまでやるのかなと思っております。この地域では認められないですよ、こういうことは。ずっとやろうとしても。

ここには資料がありませんけれども、日本全国の空港におけるデアイシングの7割がこの新千歳空港に、半端ではない数量をまいていて、効果が薄れるまでということとは本当に信じていいのかわかりません。

もう一つお願いがあります。苫小牧市内5箇所のポイントを測定地域にしています。その1箇所目が沈砂池のすぐそこで取ることになっているけれども、入れないからといって1回も取っていません、去年も。これは、そちらの空港を疑うわけじゃないけれども、やはり苫小牧市も一緒に行って、1番目のポイントのところを取っていただきたいなと僕は思っているのです。5箇所のポイントのうち、今は4箇所しか苫小牧市の環境保全課は取っていません。だから、沈砂池の所で、あれは苫小牧市のエリアですから、行かせてもらって、ちゃんとデータを取って、我々に説明するのならいいけれども、そこは入れないから取りませんでは、何かブラックゾーンのエリアだなと思っております。

デアイシングのことはこれだけにしておきます。

それから、もうコロナ禍になっていますけれども、民間委託になってから、2次交通がどういうふうになったかもわかりません。苫小牧市と空港との関わりも報告がないから、我々としては何をやっているのかわかりません。今、分かる段階で説明をいただきたいと思います。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、最初に北海道エアポートからお願いします。

●北海道エアポート株式会社（地域共生部長） ご質問ありがとうございます。

まず、デアイシングのほうですが、私も、この協議会の前に事前に道庁、苦小牧市で事前に委員の皆さんをお訪ねした際、有色デアイシングに対して非常にご心配のお話があるということは聞いておりました。

これにつきましては、国が中心に行っていくことになっています。近く国とお会いする機会がございますので、本委員からいただいたお話を私からも申し上げたいと思っております。

それと、測定に関して、苦小牧市にご報告している測定地点は6箇所でございますけれども、1箇所ができないというお話でございますが、我々の私有地でございますので、我々で測定して、その結果については苦小牧市にもご報告はしております。

ただ、ダブルチェックが必要であるということであれば、苦小牧市とも相談しながら、一緒に立会いの上で測定するというような形で情報公開に努めていきたいと思っております。

それからもう一つ、2次交通のお話ですが、私どもも非常に興味を持っています。やはり、こことは別の会議体に苦小牧市、道庁、それから、地元の商工会議所、観光協会等が入っている協議会がございますが、そこでも非常に興味を持っていただいております。

実際、2次交通に関しましては、J R、バス、タクシー等がございますけれども、J Rのスルー化については、今、関係機関のほうでいろいろ検討されているということで、私どもはその動きを注視しているところでございます。

あとは、タクシー、バスに関しましては、今年の年初大雪が降りまして、新千歳空港が非常に混乱して滞留者が発生したということがございましたけれども、バス業界、タクシー業界のご協力をいただいて、有事には一緒に協力して取り組んでいこうという協定も締結させていただきました。

いずれにせよ、2次交通問題は、地域の皆様の足の問題も含めて非常に重要なものであると思いますので、我々も情報収集に励みながら、道庁、苦小牧市ともいろいろ協議してまいりたいと思います。

以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 苦小牧市から補足させていただきます。

まず、1点目の調整池に関して、汲み取り式にすべきだということは、過去の航空機騒音対策協議会でもご意見として伺っており、その辺に関しては、今まで国やC A Bに要望してきた経過はございます。先般、5月に航空機騒音対策協議会で国から説明がありました。先日も国と連絡を取っているのですけれども、国としては、先日の協議会において地域の方々のご意見を真摯にお聞きすることができたということで、それをしっかり受け止めて、今、検討しているということをお聞かせしております。

今後、先ほども北海道エアポートが言っていましたとおり、国交省と北海道エアポート、それから、苫小牧市でこの件に関しては打合せをする予定になっておりますので、その辺はまた地域の方々に情報を出しながら、航空機騒音対策協議会等で報告をさせていただきたいと思います。

それから、2点目の水質のポイントに関しましては、5箇所あって、1つが空港内にある調整池のすぐ間際ということで、なかなか人が入れる地域ではないところなのですが、この辺の水質調査に関しましては、国の水質調査基準というのが決められている中で北海道エアポート、それから苫小牧市で調査をしているものですから、その辺は、今後、市の環境部門と北海道エアポートで話し合いをして、その水質調査の調査結果を見せていただくなど、統一した調査結果を基に報告をしていきたいというふうに考えております。

最後の3点目の民間委託につきましては、ちょっと言い訳になってしまいますけれども、なかなかこの2年半、コロナの影響もあって、対面で協議会なりお話し合いをする機会が、この民間委託になって、北海道エアポート、それから、観光協会や商工会議所、苫小牧市などで地域共生に関して話し合っていく予定だったのですが、これまではなかなかコロナの影響もあって、オンラインで会議をする程度でしたが、今後、対面での話し合いもできますので、しっかり協議をさせていただきながら、地域の方々にも情報を流していきたいというふうに考えております。

以上です。

●A委員 苫小牧市に民間委託に関してはよろしくお願ひし、できればこういう協議会の場に資料の提出を、どんな形で進んでいるのか出していただければ大変ありがたいと思います。

最初のデアイシングと、今、室長の言ったことに僕は納得しませんよ。新千歳空港は、空港が始まる前と終わりは必ずC A B、東京航空局が1周ぐるっと回って、沈砂池のそばまで行けるようになっていきます。行けない場所ではないです。僕らも見学させてもらっています。ですから、そこは立入検査ができない場所じゃないですよ。必ず行けるようにルートをつくってある場所ですから、そちらが許可すれば行って取れる場所ですから、僕らも一度、僕は前の沈砂池のときも見学させてもらっていますけれども、新しい沈砂池のほうも、今、ゲート式で大きくなりましてから見せてもらっています。そこには必ず、東京航空局の黄色いマークが入った車が走っているのを見えていますから、そんな行けない場所なんてあり得ない話です。そんな理由なら、僕は納得しないな。

それで、何を測定しているかといったら、B O Dを測定していると思うのですよ。だけれども、去年までは2. 0の基準値内に0. 5とかあったことになっています。3年前、植苗とあそこで2. 3、そういうデータもあるのですよ。そして、過去には、魚の曲がったのとか奇形のものも報告されているのです。

この自然保護区は、無害になって、今も0. 5ぐらいを流したことになるのだけれども、沈砂池方式で大量にかけるものを、色をつけるということは、むらなくかけると

ということだと思っております。だから、無害になるまでと言うけれども、それはあり得ないと思っております。それを我々は認めることはできないと思っておりますよ。それは北海道の道河川なのですよ、下はね。湿原保存の川で、北海道に4つぐらいしかない川の一つなのですよ。その下はラムサール条約湿地ですよ。

その保護区に、上では航空の安全とあって、じゃんじゃんそういうものをかけて、誰もかけるなどとは言わないけれども、その処理は沈砂池方式、これはいかがなものかと思っておりますよ。僕らはこうやって言ってきたのだけれども、一向に、国ですか、国というのは国民のためにある国ではないのですか。国土交通省になぜそういうことを提言できないか、僕はちょっといかがなものかと思っておりますよ。

北海道エアポート、もう少ししっかりしてもらわないと、国が決めたからそのとおり何でもやればよいというものではないと思っておりますよ。民間委託にするときだって、頼んで頼んで民間委託になって、地域とのこういうことはほとんど変わらなくやるということをお約束したはずなのです。それを今になってから、国がやるから我々の管轄でないようなことを言われても、やっぱり地域が困っていることを言ってくださいよ。

そして、この間も前段の会議で、すたこら帰っていったのですよ。そんなことはあり得ないと思っておりますよ。

私は納得しませんね。

以上です。

● 苫小牧市（まちづくり推進室長） 先ほど説明させていただいたのは、検討ができないというわけではなくて、しっかり地域からの要望を国交省、それから、北海道エアポート、市で話し合いをするということで、地域からの要望である汲み取り式にしたほうがいいのではということもここで話し合いをして、その後、地域の方々にその結果なり協議内容をお示しして調整していくという形になりますので、言いなりになっているわけではなくて、今後しっかり地域の方々の要望をしっかり伝えながら、どうしていくかということは話し合っていきたいと思っております。

それから、水質調査の関係でございますけれども、先ほど、場所に行けないというわけではなくて、立入制限区域ではありますけれども、航空機騒音対策協議会で調整池には視察にも行かせてもらっております。

ただ、この水質検査をするためには、何度も行かなければいけないですし、その辺は、行く方法もありますし、水質調査というのは、多分、外注なさっていると思っておりますので、その辺のデータを環境保全課で見ればその辺は分かりますので、そういう方法ができないかなど、現場に行つて水質検査するという方法も踏まえて、そこはしっかり話し合いをしていきたいという意味で先ほど回答させていただきましたので、よろしくお願ひいたします。

● A委員 国に要望しているのはいいですけれども、水質汚濁の1番は北海道エアポートの施設の範囲の中だから、それは後から委託しているところがやるとかじゃなくて、やるということを確認してもらわなかったら、これはいつまでもグレーゾーンですよ。これで

は我々は信用しないですよ。1者だけしかやらないなんて。

やはり、第三者にやらせるにしても、苫小牧市も立ち会うとか、そういうのでなかったら、今日はデータが出ていませんけれども、何の意味もないと思いますよ。そこまでみんなお任せでやるのかという感じですね。

あと、国のことは、室長が言うように、やってくれるのを期待するのみだけれども、今の水質検査まで、そこまでグレーにするのだったら、やっぱり地域に対する考え方を変えなきゃ駄目だなと思いますよ。

それならば、5箇所のポイントを4箇所にすればいいのです。1番のところを2番にすればいい。できませんと書くこと自体がおかしいじゃないですか、1番のポイントをやらないで。白紙ですからね。そんなことはあり得ないと思いますよ。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 水質調査の関係で、横棒が引かれている調査していないところをおっしゃっているのだと思いますけれども、これは、今は北海道エアポートですけれども、もともと国土交通省が新千歳空港を管理しております。その調査をするタイミングが市と合っていないので、横棒で、そこはやっていない期間ということで、ちょっと資料の見せ方ということではおかしいところがあったと思います。

ただ、これは、グレーにしているわけではなくて、北海道エアポートを疑うわけではなくて、その辺はしっかり、国の水質調査基準に則り、市と北海道エアポートも水質調査をしておりますので、市が水を汲み取って調査をするという方法も一つですし、国の水質調査基準に則り調査した資料を提供してもらって確認をしていくという作業もありますし、その辺はしっかりお話をして、どういう方法がいいかということは今後の協議会でしっかり報告をさせていただきます。

●A委員 もう時間ですからこのぐらいにしておきます。

どちらにしても、苫小牧市のやり方はおかしいと思いますよ。1、2、3、4、5箇所のポイント、横棒を引いたけれども、やっていないわけではないのなら、そこに数字を入れればいい。誰が見たって、入っていないのだから、やっていないとしか考えられないのですよ。ほかの2、3、4、5は全部数字を入れてあるのですよ。それで、年に10回もやるわけではないのですよ。そこまで我々をおかしく言うのであれば、グレーにしていなと言ったって、疑わざるを得ないね、これは。

これでやめます。以上です。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） その辺に関しては、しっかり次回に報告できるようにしておきたいと思います。

続きまして、C委員、お願いします。

●C委員 今のことに関係して水質検査についてですけれども、滑走路に融雪剤を冬に使うと思うのです。それに対して、今、地域の人たちは、塩分を含んでいるのではないかという疑いの目で見えています。それで、水質検査においても、塩分量の測定というものを追加してもらいたいというふうに考えております。

それと、融雪剤は塩分を含みませんよという品質証明書といますか、成分表といますか、そういうものを次回のタイミングで提示してもらいたいと思います。

●北海道エアポート株式会社（地域共生部長） ありがとうございます。

いろいろご心配をおかけして申し訳ございません。

融雪剤に関しましては、これまでもそうなのですが、塩化カリウムとか塩化カルシウム等の環境に大きな影響を及ぼす成分は使っておりません。そういう中で、今、委員さんが心配していたことについては一応対処してございますが、ご理解いただければと思っております。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、C委員から要望のありました品質証明、どんなものが何%入っているのかというところは、北海道エアポートから後ほど頂いて、報告をさせていただきます。それに基づいて、塩分調査が必要なのかというところも北海道エアポートと相談して、地域の方々にお示ししたいと思います。

B委員、お願いいたします。

●B委員 今回の件は、苫小牧市のことに関わるものですから、今日、代表で来ておられる副市長は、そのことを約束して、地域の宿命だと思って我慢していることを我慢させない地域にしてほしい。

以上です。

●苫小牧市（副市長） 地域にとっても不便を感じている、そして、懸念の部分というのは多々あると思います。皆さんからいただいた意見については、しっかりと市としても対応できるように協議を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●B委員 市長にも言うておいてください。

●苫小牧市（副市長） はい。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ほかにもございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 北海道から何かございますでしょうか。

それでは、ないようでございますので、協議会の閉会に当たりまして、交通企画監からご挨拶を申し上げます。

●北海道（交通企画監） 皆様、今日は、長時間にわたり熱心なご議論をありがとうございます。

本日皆様から大変貴重なご意見をお寄せいただきましたので、心より感謝申し上げますとともに、調査すべき事項等、ご指摘いただきました点については、しっかりと確認してまいりたいと思っております。

また、今日は道営住宅のほうを事前に見させていただきまして、子育て世代の方が外に出て遊んでいらっしやるのを見て、非常にそうしたニーズも高まっているということを確認できたというふうに思っております。しっかり持ち帰って検討させていただきたいと考えております。

いずれにしても、今後の住宅防音対策を含めまして、地域振興対策の取組にできる限り反映させてまいりたいと考えております。市、財団、北海道エアポートと連携しまして、ここにいる地域の皆様の安全・安心な暮らしが確保できますように、引き続きしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

道といたしましては、新型コロナウイルスの感染防止対策に全力を挙げながら、同時に航空需要の拡大も含めまして、新千歳空港並びに周辺地域の皆様の活性化に繋げてまいりたいと考えております。

今後とも引き続きご理解とご協力を賜りますよう、この場を借りて厚くお願い申し上げます。

本日は、どうもありがとうございました。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 続きまして、副市長からご挨拶を申し上げます。

●苦小牧市（副市長） 本日、住宅防音対策、地域振興対策の進行状況をはじめ、新千歳空港の情勢などについてご協議をいただいたところであります。

本日の協議結果をしっかりと踏まえまして、北海道として新千歳空港周辺環境整備財団と連携しながら進めてまいりたいというふうに考えております。

また、先ほどB委員からありましたように、市に対するご指摘もございましたので、そこについてはしっかりと対処させていただきたく、よろしくようお願い申し上げたいと思います。

最後になりますが、委員の皆様には、これまでも大変なご負担をおかけしたところでございますが、引き続きのご理解、ご協力を心からお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

4. 閉 会

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、以上をもちまして、第52回新千歳空港の24時間運用に関する苦小牧市地域協議会を終了させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

以 上